

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



紙 一 重

紙一重とは辞書に、「一枚の紙の厚さほどのきわめてわずかな違い」と書かれてある。

あるご門徒から、「戦争中、自分が乗る予定だった船が時間よりも早く出航してしまい、次の船に乗船して戦地に向かった。その早く出航した船は、爆撃で乗員全員が亡くなった。自分の乗った船も爆撃を受けたが、全員無事に帰ってくる事ができた」という話を聞いた。まさに、紙一重の偶然を生きてこられたのだと驚かされた。

ご門徒の話を聞いて、では自分はどうかであったのだろうかと考えてみると、生きる死ぬではないが、今西徳寺でお世話になっているのは、たまたま人手が足りなくなつて、たまたま私が就職していない寺の次男だったから、声をかけていただいた。どれか一つ欠けていても、現在の私はあり得ないものである。

さらに考えてみると、父と母の出会いがなければ、私はこの世に存在していないし、両親もそれぞれの親の出会いがなければ存在していない。今このように生きているということは、脈々と受け継がれてきた紙一重の偶然が、私に至るまで途切れることなく続いてきた。その証明が、私が今この世に存在していることである。

ご門徒の話から、今までぼやけていた私のいのちの事実が、すこしはつきりしたように思う。

患者さんの傍で

目黒区在住 田村 順二 さん



今回は台東区竜泉で「田村胃腸外科」の院長をされている田村順二さんにお話を伺いました。

◆開業医になる！

巣鴨で診療所を開いていた父親が、戦後まもなくこの地で開業しました。次男坊の僕は跡継ぎとしての自覚はなかったんですが、やはり親の影響もあって医者になる道を選びました。当時、アメリカに留学していた2年間を除けば、大学病院と診療所を掛け持ちしておりまして、その後、大学に残るか開業医になるか随分悩みましたね。しかし、父親が病気になる、四十歳で大学を辞め、開業医になることを決意しました。

◆医療現場の現状

開業医と大学病院では異なった医療が求められます。我々は患者さんの傍にいて一緒に悩みながら、病気のプライマリ・ケア（初期診療）に心がけています。そして重度の患者さんであれば専門の大学病院を紹介して、早期治療に専念してもらうんです。

働き盛りの人たちが糖尿や血圧、心臓病に罹（かか）つていけば、重傷になる前に治療をして、薬を多用せずに済むような治療を心がけていく。最近

では特定検診で早期発見に努めて治療していく。今までは専門医が診ていたことを開業医がカバーしていくという、私たちにかなりウエイトシフトが要求されています。それが医療現場の現状ですね。

◆医療の橋渡しに

以前、品川でサラリーマンを中心にしたクリニックを始めましたが、こちらとの両立は難しく、体力の限界を感じて先輩医師に譲りました。ただ面白いことに、品川のスタッフが今でも当院のスタッフとして手伝ってくれています。

今は目の前の患者さんと向き合い、大学病院と連携を取っていく「かかりつけ医」としての役割に重要性を感じています。最先端の医療がこの街で生かされるように橋渡しをしていく、それが自分に与えられた大切な役目だと考えています。

◆下町の開業医

僕は小学校に入学するまでこの街に住んでいたのですが、下町の人たちとの想い出が残っています。一葉公園に街頭テレビが置いてあったり、いつも誰かが子どもたちの面倒を見ているという生活が当たり前だったんです。とにかく隣近所が密に接

しながら暮らしていましたね。

現在、東京小学校の校医もしていますが、子どもたちが成長していく中に自分がいて、子どもたちが独立して大人になっていく姿を見守っていく。まあ医者立場ではありませんが、この街で子どもの成長を垣間見ながら医者の仕事をするということとは、とてもやり甲斐があるし面白いですよね。それは長年、開業医を続けているというポジションにいるお陰だと思っています。

（聞き手 木村 専正）

お釈迦さまは、すべての人が、苦惱は自分の欲望によるという道理に目覚めて、安らかに生きることを願われました。「大乘無上の法を宣説し、歡喜地を証して、安樂に生ぜん」とは、前回に続いてお釈迦さまの願いの通り生きた龍樹菩薩への親鸞聖人の讃嘆です。わたしたちの日常は、「おのれよければ、すべてよし」にどつぷり漬かつて生活しています。それに対して「大乘」は、あらゆる人と一緒に「大きな乗り物」ですから、「みんなよければ、おのれよし」という生き方をあらわします。このみんなとともに救われていく大乘の智慧に出遇った感動を「歡喜地」といいます。

を先にして、他を縛り自分を縛ってきた分別から解放されて、もはや退くことのない歩みをいただいた歡びです。

この龍樹菩薩のお覺りの歡びを、

聖人は「本師龍樹菩薩は 大乘無上の法をとき 歡喜地を証してぞひとえに念仏すすめける（『高僧和讃』）」と讃えられます。すなわち龍樹菩薩が、「大乘無上の法」を明らかに



正信偈の話 ②⑦ 松井憲一

宣説大乘無上法 証歡喜地生安樂 顯示難行陸路苦 信樂易行水道楽

（大乘無上の法を宣説し、歡喜地を証して、安樂に生ぜんと。難行の陸路、苦しきことを顯示して、易行の水道、樂しきことを信樂せしむ。）

にし「歡喜地を証」されたことの意義は、ひとえに「念仏」をすすめられたことにあるといわれます。

そのお念仏は、龍樹菩薩が、世間の道に譬えて「陸道の歩行は則ち苦しく、水道の乗船は則ち樂しきが如し。（『教行信証』）」といわれるように、船に乗せられていく楽しい道であります。しかし、楽しい道は、すぐ見つかったわけではありません。龍樹菩薩は、仏道は不惜身命の道であるから、安易な道を求めることは、「大人志幹の説（道を求める意志の強い大人のいうことではない）」と否定をし、幾たびも弱虫になる自分を叱咤激励しておられます。

そうした龍樹菩薩の血のにじむ苦勞を、聖人は、「難行の陸路、苦しきことを顯示して」といっただけ

す。すなわち、一人一人が自分の力で目覚めようとする歩みは、山や谷の多い「難行」であるだけでなく、「陸路」の「苦」であると、身を以て顯らかに示してくださったというのです。さらに、聖人は、「路は則ち二乘、三乘、万善諸行の小路也。（『教行信証』）」といわれて、「陸路」はいずれ行き止まりになるような、小路であるともで頷いていかれます。

この「難行の陸路」の「苦」の顯示に、聞かえてきたのが、「易行の水道、樂しきことを信樂せしむ」という易行の水道（お念仏）の道であります。易行の水道は、乗船の道です。乗船は、すべてをおまかせするところに、成り立ちます。それは、「みんなよければ、おのれよし」の世界に、すでに生かされて生きていたことへの気づきです。その領きこそ、仏より与えられた樂（よろこび）、信樂であります。

それで、聖人は「道は則ち是本願一の直道、大般涅槃無上の大道也。（『教行信証』）」と、本願の念仏のみが、我執を突き破る一念一念の直道であり、大道であると讃えられます。

山門の言葉

ごしょう いちだいじ 後生の一大事



後生という言葉は、今やもう通用しない言葉かも知れない。来世や死後の世界のごとくに理解されてきたが、「後生の一大事」とは死んだ後の心配ではなく、今、こうして生きている人生においての一大事をいう。

私の日常は蓄積された自分の価値観によって分別しているが、人生を私の物差しで計り知ることが難しい。残りの人生における将来設計も、自分のソロバンではじき出したに過ぎず、計画通りに事が運ぶ保証はどこにもない。後生の一大事とは、私の計らいを超えて事実となる人生に立てるか、否かが問われていることである。

よく人間を「万物の霊長」として取り上げるが、人間は一生、生き方に迷う存在である。他の動物は自分の業を尽くして生命を終えていくが、人間だけは生活に不安や悩みを抱え、生き方が定まらずに迷い続けていく。仏教は人間の迷いを生死という言葉で表し、生死出づべき道とは何かを説かれたのが釈尊である。

生死の迷いとは自分の思いに執着することによって、受け入れがたい

現実に行き詰まりを感じることである。つまり老病死していく人生は私の思い通りにはならない。自分では捨てることのできない執着が身の事実によって破られ、先だつて人生を尽くした人々の歩みに導かれる生活が始まる。それが「後生の一大事」である。

自分の心のままに過ごしてきたれまでとは生き方が変わり、仏の智慧、先徳の智慧によって今日を生きる生活が今、私の人生によびかけられている。

(木村 専正 記)

日誌

- 9月17日 仏教青年会『歎異抄』に聞く
講師 宗 正元師
- 9月18日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
「お釈迦さまと阿弥陀さま」
- 9月20日～26日 秋季彼岸会
- 9月22日 秋季永代経法要
法話 岸本 住職 仲井 真裕
- 9月27日・28日 宗祖忌
- 9月27日 東京教区研修会
(新横浜 住職・坊守・高橋参加)
- 9月28日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
- 9月29日 中央ブロック会総会・聞法会
(本堂・参加者 26 名)
- 10月5日 混声合唱団「エコー」練習
- 10月7日・8日 中興忌
- 10月12日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
- 10月16日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
「お釈迦さまと阿弥陀さま」
- 10月17日 教行信証「信巻」に聞く(第91回 最終回)
講師 宗 正元師

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

逗子市	西村 千工 様
江戸川区	形屋 顕弘 様
新宿区	兼松 秀夫 様
世田谷区	山瀬 一枝 様
板橋区	木下 好江 様
北区	小山 幹夫 様
鎌ヶ谷市	鈴木 秀夫 様
川崎市	田名網 綾子 様
草加市	代田 功 様

「アンケート集計結果」

平成 25 年 7 月 13 日～ 16 日に、ご協力頂きましたアンケート結果をご報告致します。

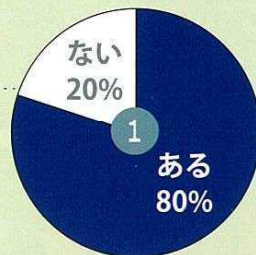
1

仏教に関心がありますか？〔回答数 881〕

「ある」 701 「ない」 180

「ある」と答えられた方

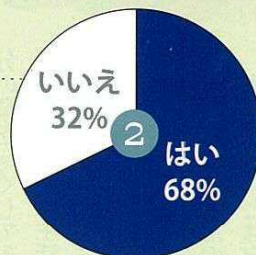
- | | |
|-----------|-----|
| ①先祖供養 | 638 |
| ②祈願 | 156 |
| ③人生の依りどころ | 332 |



2

聞法会の存在をご存じですか？〔回答数 885〕

「はい」 598 「いいえ」 287



3

聞法会に参加されたことはありますか？〔回答数 857〕

「ある」 142 「ない」 715

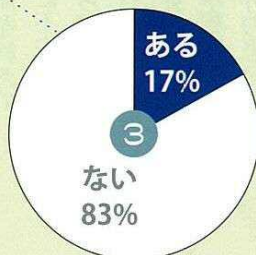
「ない」と答えられた方

宗教関係の講習会に参加したことがある

「ある」 96 「ない」 678

「ある」と答えられた方の参加目的

- | | |
|--------------|-----|
| ①自己啓発 | 100 |
| ②人生相談 | 16 |
| ③教養や知識を深めるため | 129 |
| ④その他 | 31 |



アンケートに見られる傾向として、仏教に関心はあるが西徳寺で開催されている聞法会に参加したことが無いという解答が多かった。その他の分析については現在検討中です。尚、アンケート実施期間中には評議員会・青年会等、40名の方々のご協力の元、実施できた事を御礼申し上げます。

生年月日は昭和 49 年 3 月 7 日で、現在 39 歳です。西徳寺には平成 13 年に入寺し、3 年間はお花やお線香を扱う華香所でお世話になりました。その後寺務所に入り法務員として務めさせて頂いております。

もともと在家の私にとって驚いたことの一つに、「お寺さんだから言うけども…」と皆様から日頃考えておられること、お悩みの御相談を受ける機会をいただくことです。内容は様々で多岐にわたりますが、容易に解決できないものばかりです。しかし同時に「そのお悩みや苦しみの根元は一体何なのか?」、そして「それぞれのお悩みは実はみな通じているのではないだろうか」と感じるのです。

仏教が根本を言い当てているからこそ聞法会が開かれてきました。聞法はその悩みや苦しみを決して無駄にせず、むしろその事柄を通して自身を教えていただく場です。それがお寺の役割だと思えます。だからこそ仏法を通して人の話を聞く僧侶になりたいと思っています。

だからこそ皆様とゆっくりお話したいと願っているのですが、その機会が少ないのが現状です。その中で貴重な時間の一つに、ご自宅へのお参りがあるかと思えます。通夜・葬儀はも



ちろんのこと、初七日から四十九日までのお参りや、月参りという機会が改めて大切な場であるのではないかと考えております。

また、西徳寺は五ブロック聞法会をはじめ、様々な聞法会が開かれていますが、僧侶のみならず、会員同士が声を掛け合いながらご参加していただいております。ますます西徳寺が人に出遇えるお寺として開かれ、交わることを通して私自身も当然のこと、皆が「私の西徳寺」といえるようなお寺にしたいと思っています。

職員
自己
紹介

山崎 哲



掲 示 板 平成25年11月

2日(土)・3日(日) 報恩講 両日布教使
福井 憲雄師

6日(水) 正午 婦人会食事会(浅草田甫・草津亭)

9日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 蓮井 邦宗

10日(日) 午後2時 城西ブロック会間法会(中野商工会館)
午後3時半 台東区合唱祭(混声合唱団「エコー」出演)

13日(水) 午後4時 総代会

16日(土) 午後1時半 定例間法会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習

17日(日) 午後2時 城北ブロック会間法会
(大塚 大和田)

19日(火) 午後7時 仏教青年会報恩講
講師 有馬 賢照師

21日(木) 午後1時半 「唯信鈔」に聞く
講師 宗 正元師

23日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 仲井 真裕

秋季永代経法要

彼岸期間中は天候にも恵まれ、大変多くの方がお参りに来られました。

22日には「秋季永代経法要」が勤まり、法要後には岸本住職と仲井法務員から法話がありました。



岸本住職は、お釈迦さまの出家のきっかけになった、「四門出遊」を取り上げられ、人間の抱える苦悩を超える道があるという事を教えて下さいました。

仲井法務員は、『歎異抄』の「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」という言葉を取り上げ、現実の様々な環境に我が身が動かされている事を、実生活を通し話しました。法話後には、「とても緊張しましたが、普段感じていることを中心にお話させて頂きました。」と、7月に結婚した報告も含め、新たな生活を通した話を聞けたように思います。(大橋 伊知郎 記)



混声合唱団「エコー」が 台東区合唱祭に出演します！

この度「エコー」が第58回台東区合唱祭に出演することになりました。お寺以外で歌うのは初めてですが、団員さんと共に楽しく歌いたいと思います。入場は無料です。たくさんのお越しをお待ちしております。(高橋 淳 記)

日時：平成25年11月10日(日)
9時半開場 10時開演
(「エコー」は15時半頃に出演します)

於：東京芸術大学奏楽堂
台東区上野公園12

中央ブロック会総会・間法会

去る9月27日に中央ブロック会の総会と間法会が西徳寺本堂にて行われました。

総会では新しく会長として本間明さん、副会長に小泉博昭さん、幹事に藤岡正行さんが就任することで承認をいただきました。会長からは「新しい体制のもと、もっとたくさんの方々を仏法を学んでいきたい」という挨拶をいただきました。

間法会ではナムアミダブツとは何語なのかという質問が出され、サンスクリット語であるという住職の答えに皆さんが興味深そうに聞いていました。

懇親会の席では、会員さんからの日頃気になっていることや、お寺をもっと活性化させていきたいという熱い思いを語っていただき、熱気に充ちた時間でありました。

(高橋 淳 記)

編集後記

10月8日～10日の2泊3日で職員旅行に出かけました。旅先は北海道・道東方面で、阿寒・知床・摩周・網走を巡り、雄大な景色とオホーツクの海の幸を堪能しました。

世界遺産に登録された知床半島で観光船に乗船しました。切り立った海岸がそびえ立ち、果てしなく続く海を眺めていると、いつも自分を中心に生きている私は、大自然からすれば本当にちっぽけな存在であることを感じさせられました。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com